

【緊急アンケート】

新型コロナウイルス対策に向けた調査 ～高齢者編～

2020年6月15日

企画調整局データ解析チーム

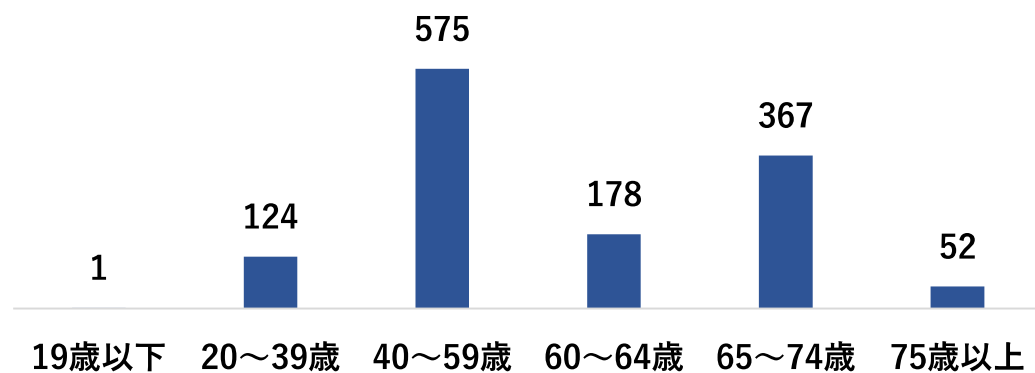
実施目的

- 新型コロナウイルスの影響による外出自粛によって、多くの高齢者が家で過ごさなければならない状況になっている
- このような状況の中で生じる、高齢者の生活に関する心配事や、健康状態などを高齢者本人、高齢者と同居するご家族、近隣の高齢者の様子という3つの視点から、アンケートにより聴取する
- アンケート結果を集計・分析し、今後の対応に繋げていくための検討材料とする

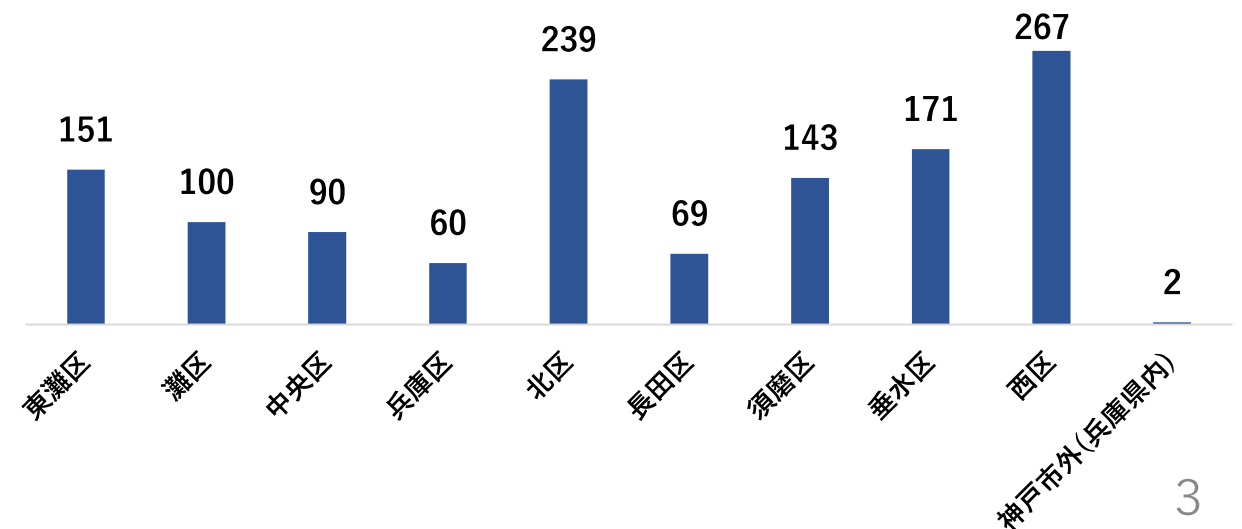
アンケート概要及び回答者数等

- 実施期間：5月12日（火）～14日（木）
- 対象者：情報共有アプリ「**KOBE ぽすと**」をインストールしている方
- 回答者数：1,297人

年齢別回答者数

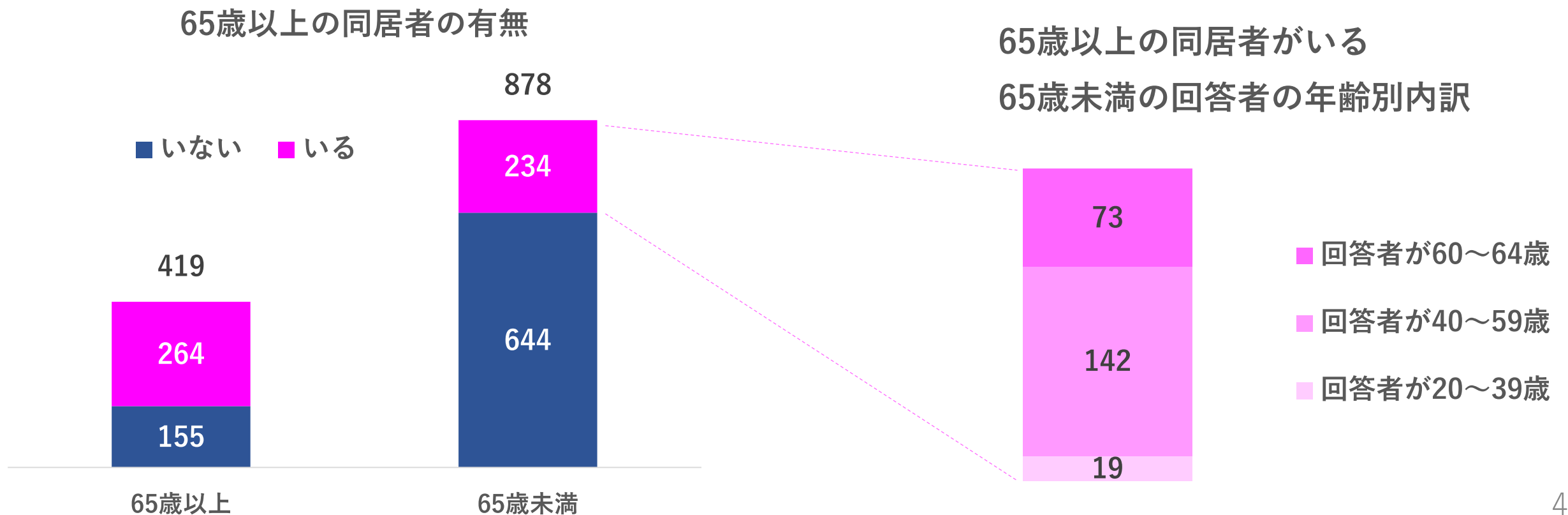


居住地別回答者数



回答者の属性①

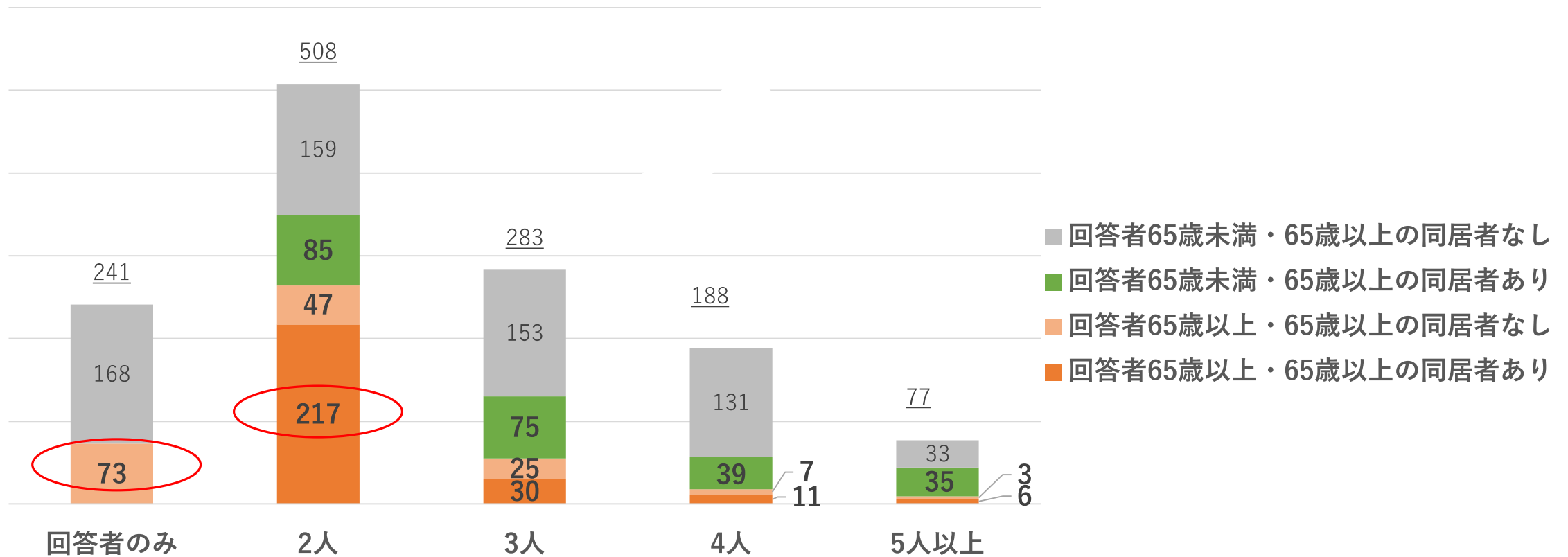
- 回答者本人が65歳以上：419人
（うち65歳以上の同居者がいる：264人）
- 回答者が65歳未満で65歳以上の同居者がいる：234人



回答者の属性②

- 回答者の家族構成は、65歳以上がいない世帯を除くと、高齢者の二人暮らしが217人で一番多く、次に高齢者（回答者）の一人暮らしが73人と続く。

回答者の家族構成

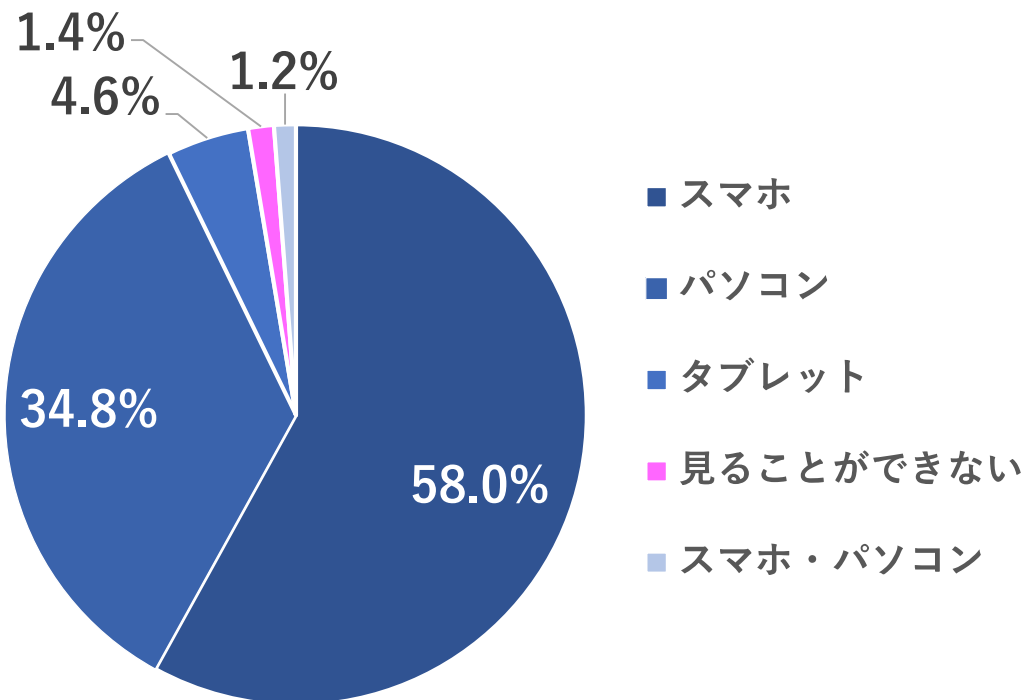


ICTの活用状況について①

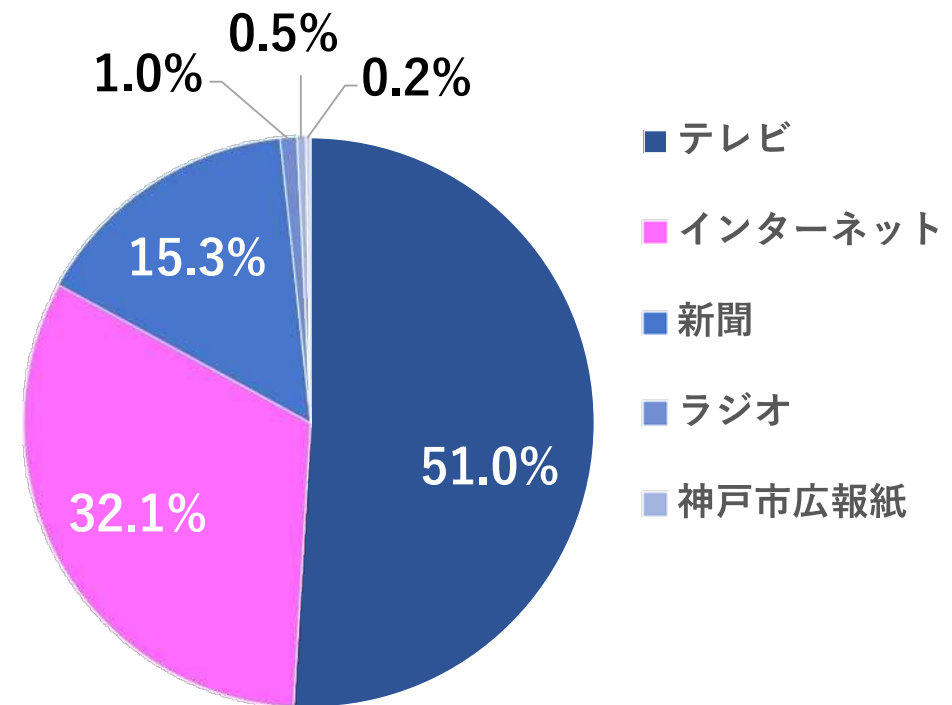
※集計対象：回答者本人が65歳以上

- インターネット経由のアンケートであり、回答者本人が65歳以上の場合、「インターネットを見ることができない」は1.4%しかいない。
- 主な情報収集源としては、約5割が「テレビ」で、次に「インターネット」が32.1%だった。

インターネット閲覧可否・媒体



情報収集源

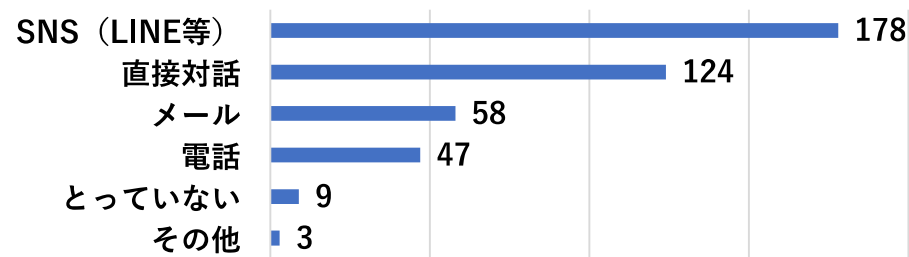


ICTの活用状況について①

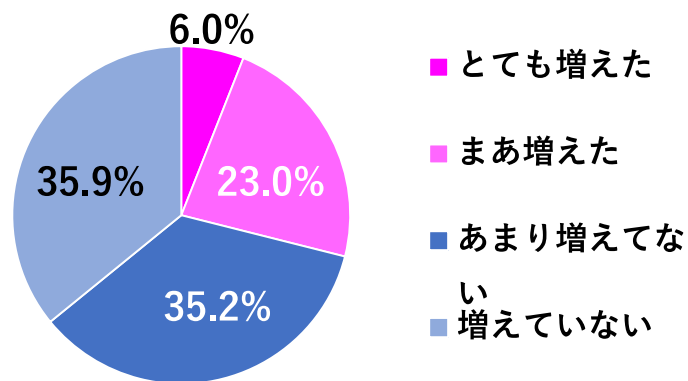
※集計対象：回答者本人が65歳以上

- 緊急事態宣言発令前と比べてコミュニケーションをとる回数が増えたと回答した方は全体の約3割
- ほぼインターネットが使える回答者本人は、SNSが主要なコミュニケーション手段になっている。

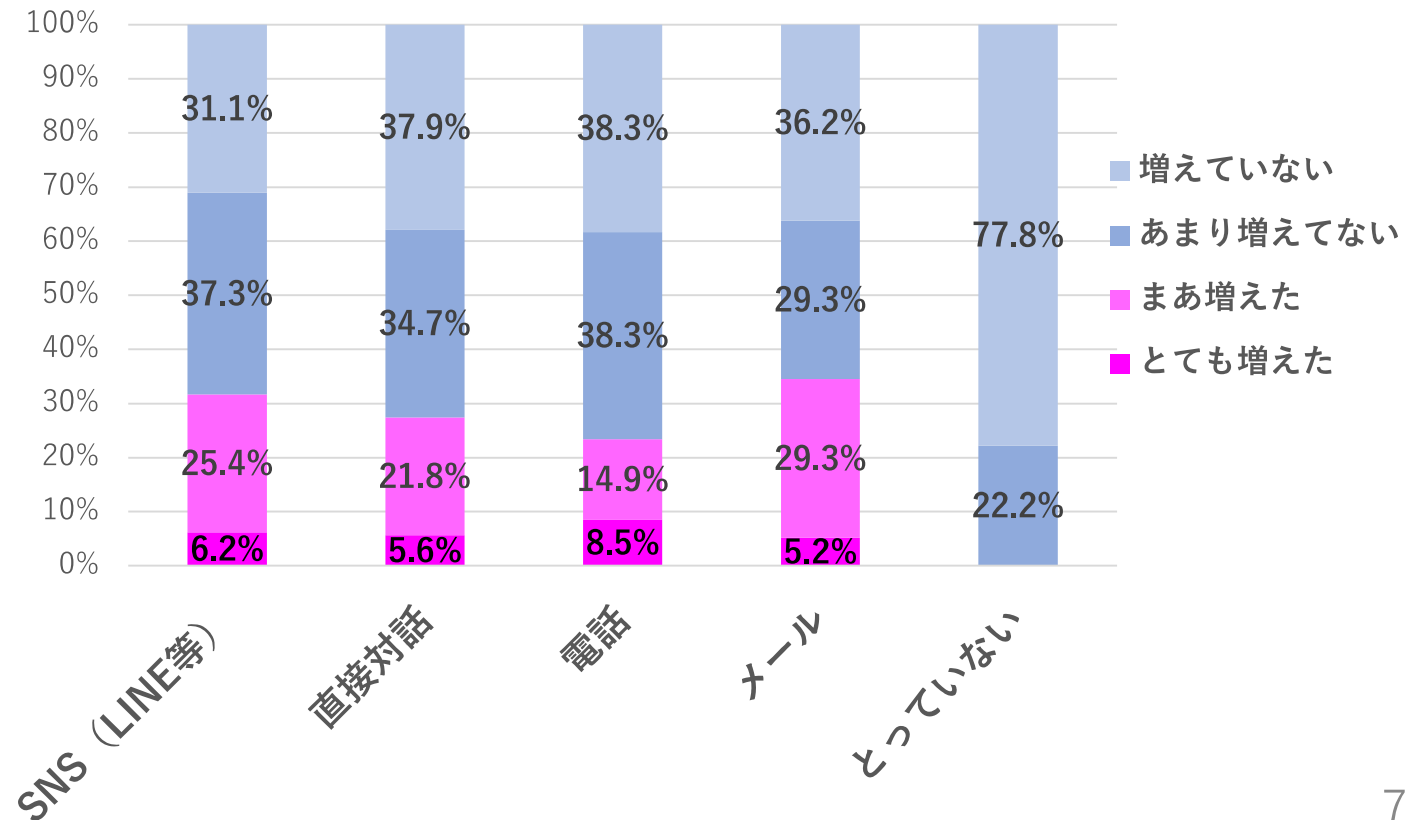
家族や友人とどのようにコミュニケーションをとっているか（最も頻度の高いもの）



コミュニケーション回数



最も頻度が高いコミュニケーション手段別
コミュニケーション回数の変化

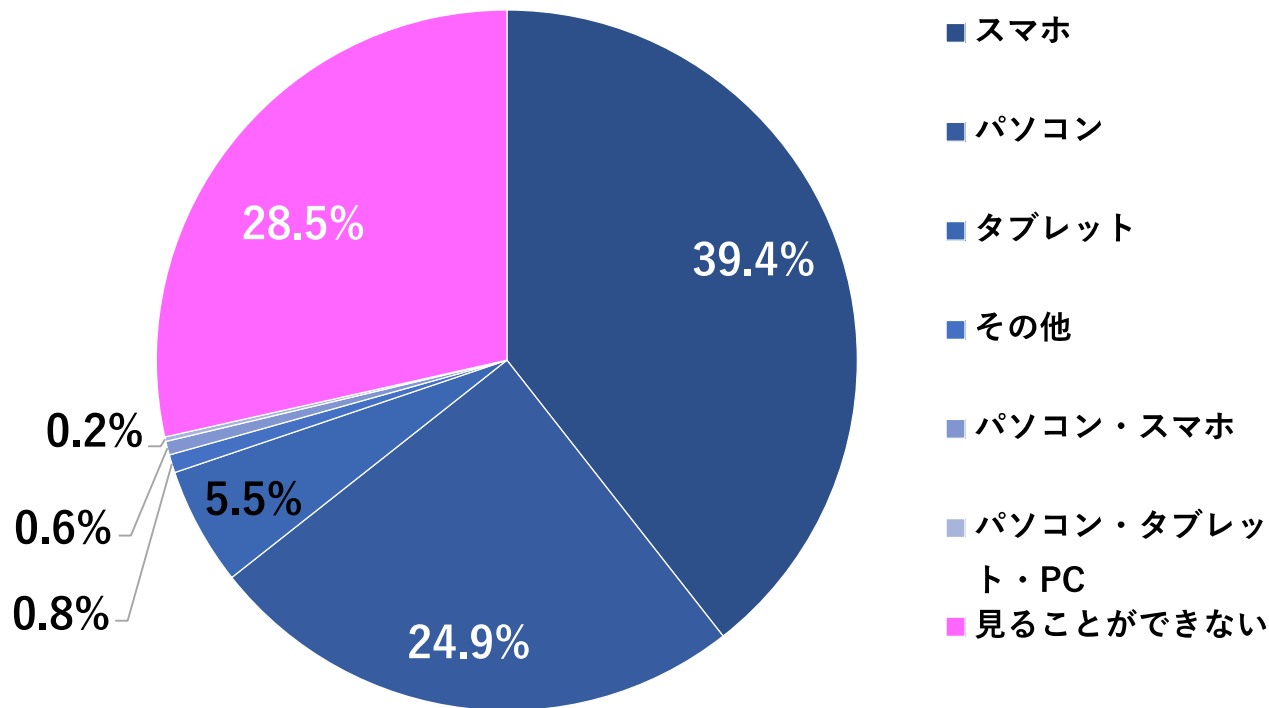


ICTの活用状況について②

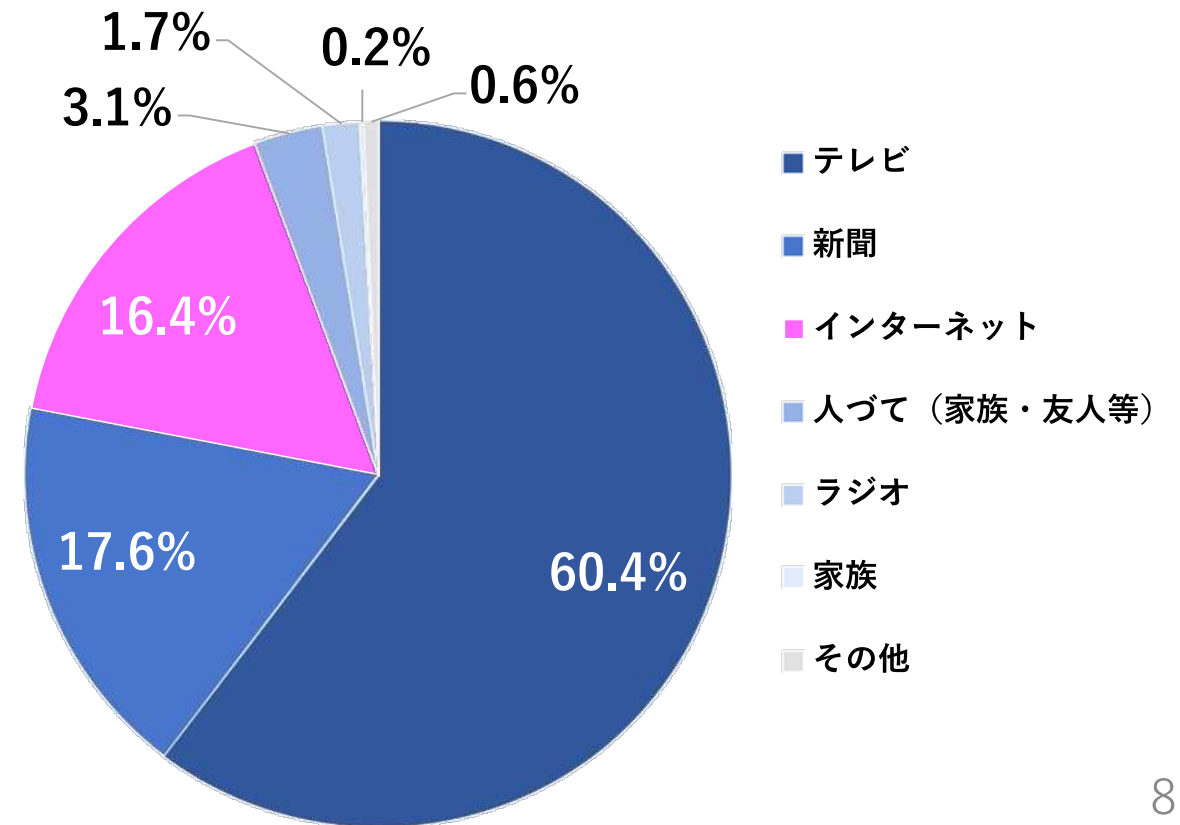
※集計対象：同居者からみた65歳以上

- 同居家族からみて、インターネットを閲覧できない65歳以上の高齢者は28.5%
- 情報収集源は「テレビ」と「新聞」が78%を占めており、「インターネット」は16.4%

インターネット閲覧可否・媒体



情報収集源

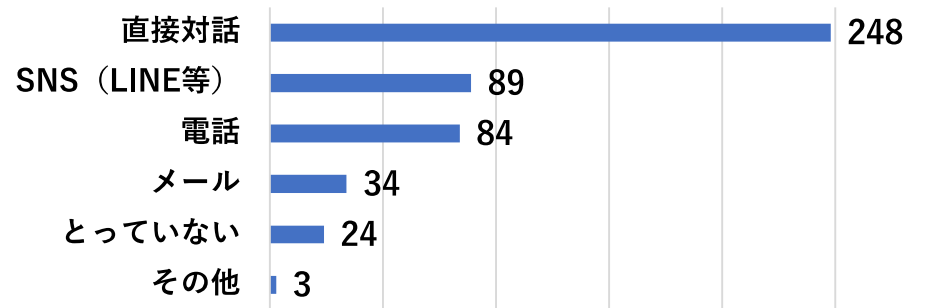


ICTの活用状況について②

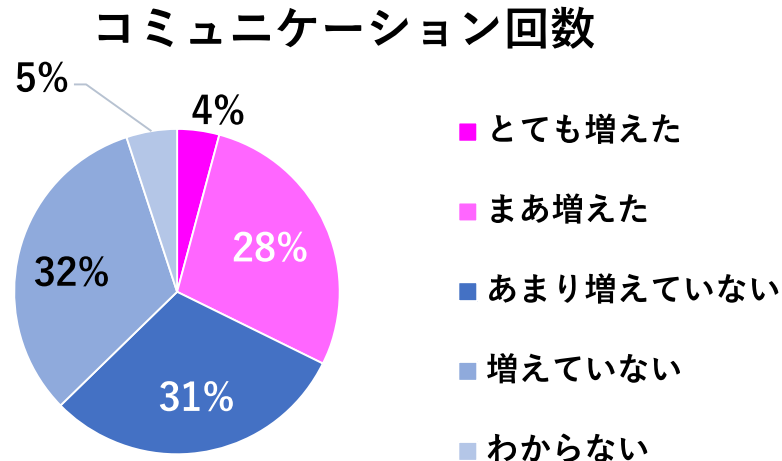
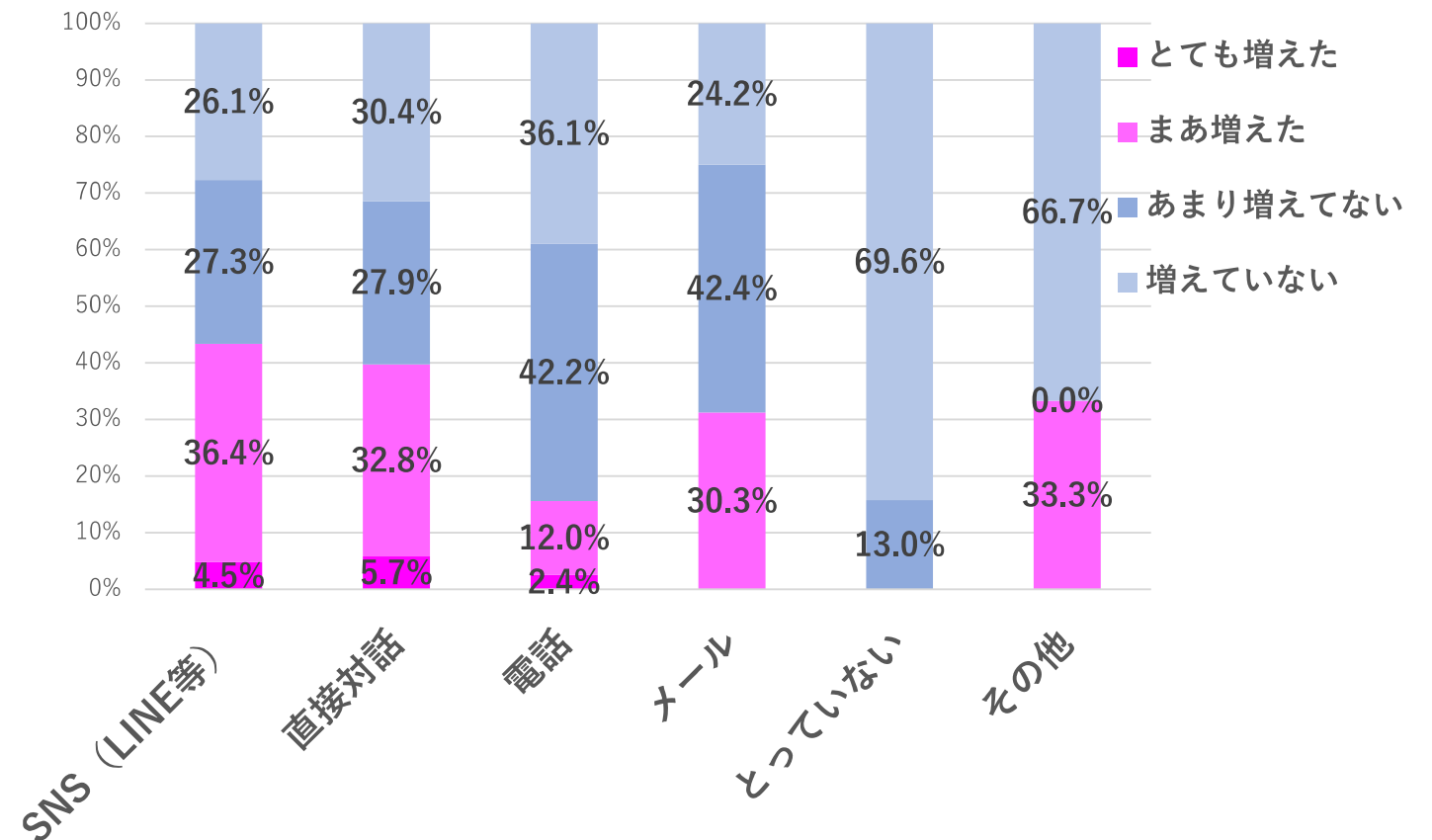
※集計対象：同居者からみた65歳以上

- 緊急事態宣言発令前と比べてコミュニケーションをとる回数が増えたと回答した方は全体の約30%で、同居者がいることから最も頻度が高いコミュニケーションは直接対話となっている。
- 最も頻度が高いコミュニケーションがSNSの場合、会話が aumentado 割合が40%超と高い。

家族や友人とどのようにコミュニケーションをとっているか（最も頻度の高いもの）



最も頻度の高いコミュニケーション手段別
コミュニケーション回数の変化



ICTの活用状況について③

※集計対象：回答者本人が65歳以上
及び同居者からみた65歳以上

- 日常で不足している情報としては「地域毎の感染状況」に関する回答が最も多く、全体としては、詳細な感染情報を求める意見が多く見られた。
- 感染情報以外では、近隣のお店の情報に関する回答が多い。

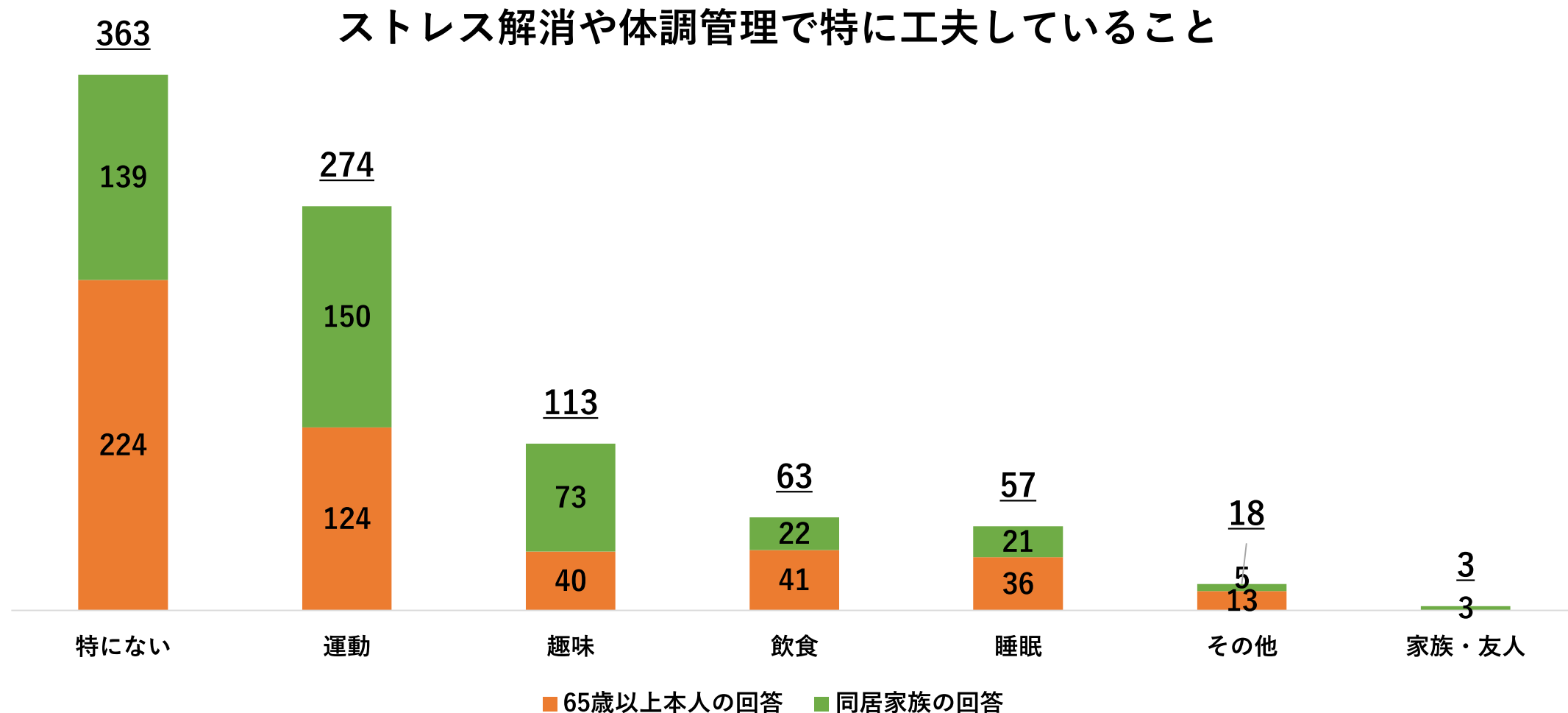
日常で不足している情報



生活状況について①

※集計対象：回答者本人が65歳以上
及び同居者からみた65歳以上

- ストレス解消や体調管理で特に工夫していることについては、「特にない」という回答が全体の約40%、「運動」という回答が約30%となっている。

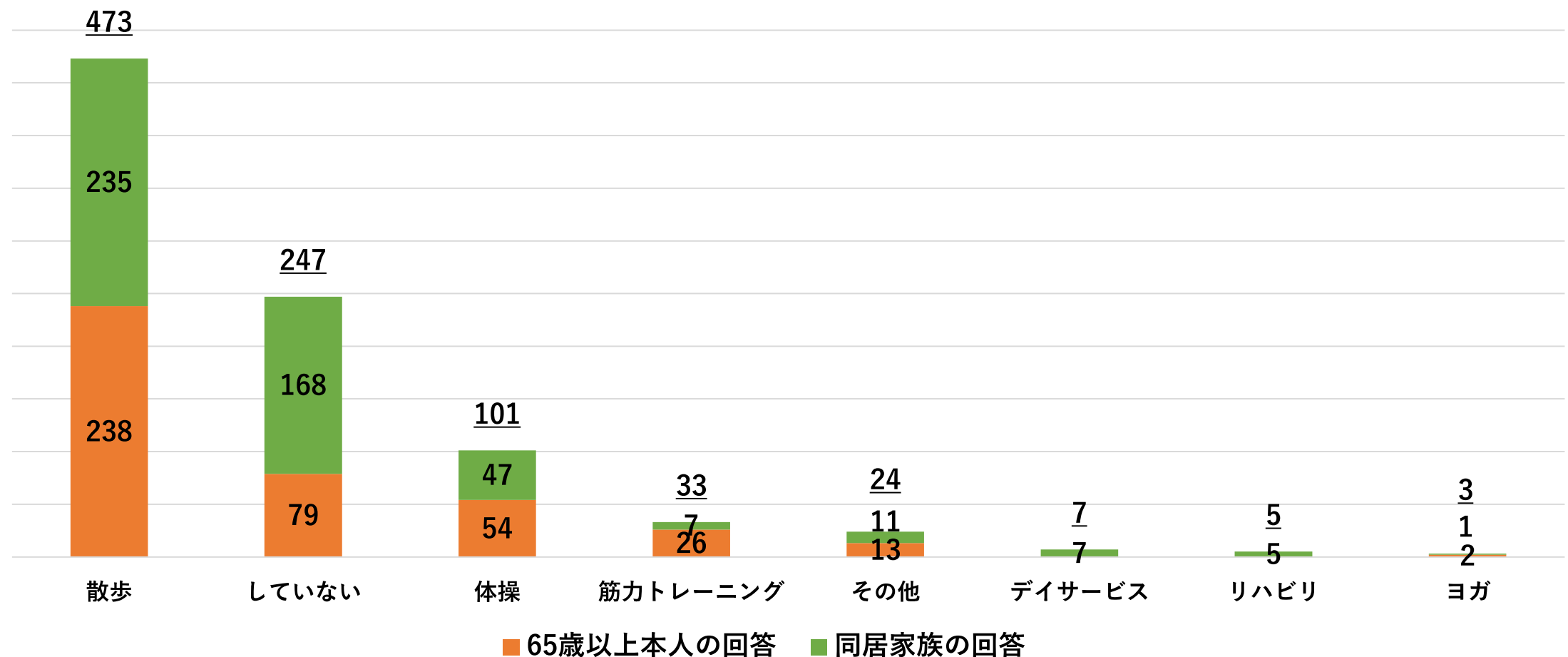


生活状況について②

※集計対象：回答者本人が65歳以上
及び同居者からみた65歳以上

- 主に行っている運動は「散歩」と回答した人が最も多く、全体の約50%。
次いで「運動をしていない」と回答した人が約30%となっている。

主に行っている運動

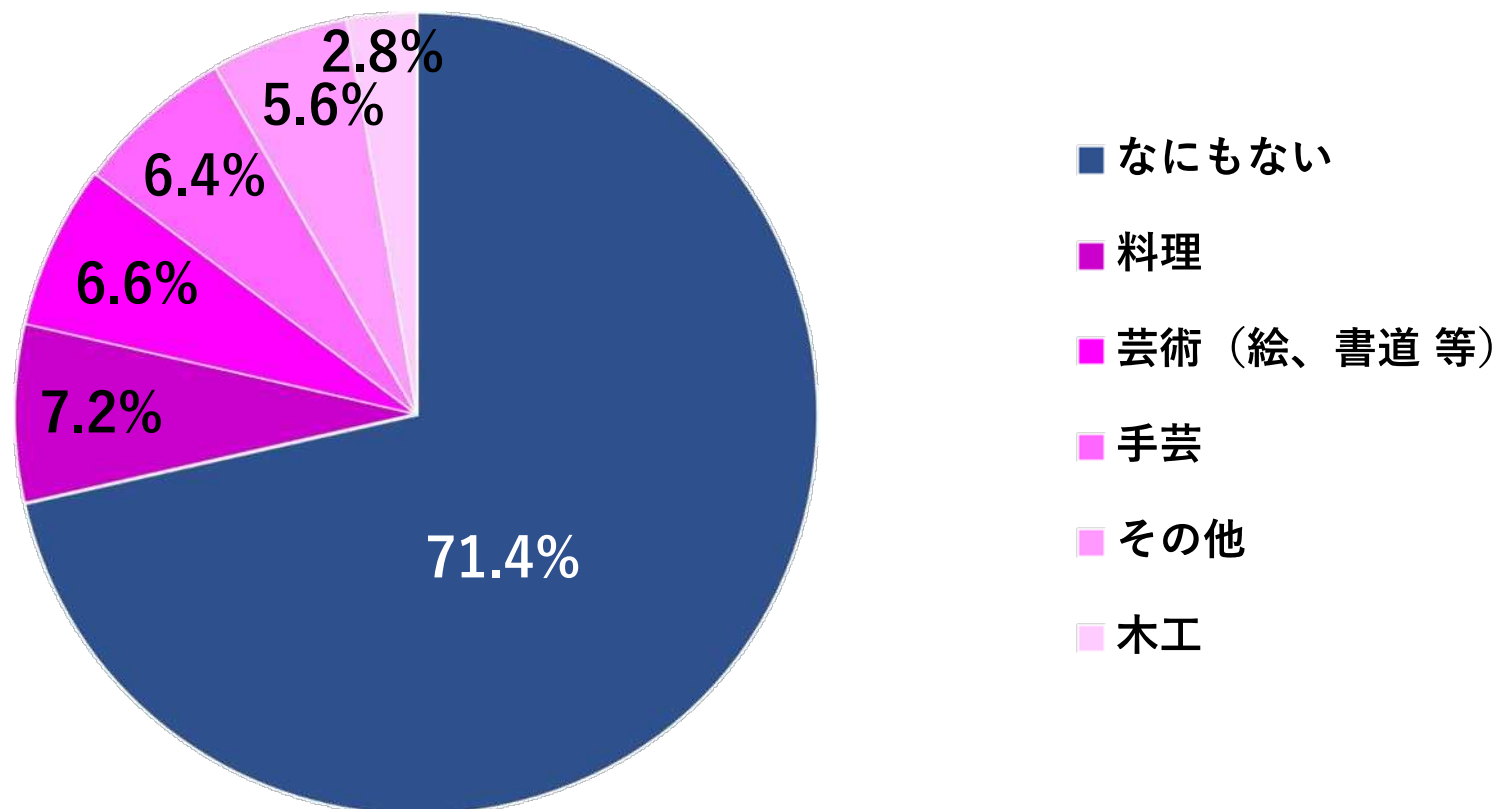


生活状況について③

※集計対象：回答者本人が65歳以上
及び同居者からみた65歳以上

- 全体の3割が自宅にいてもできることで社会に役立てたいことがあると回答。その他の回答としては、「近隣児童の学習支援」や「仕事（テレワーク）」という回答も一定数見受けられた。

自宅にいてもできることで社会に役立てたいこと

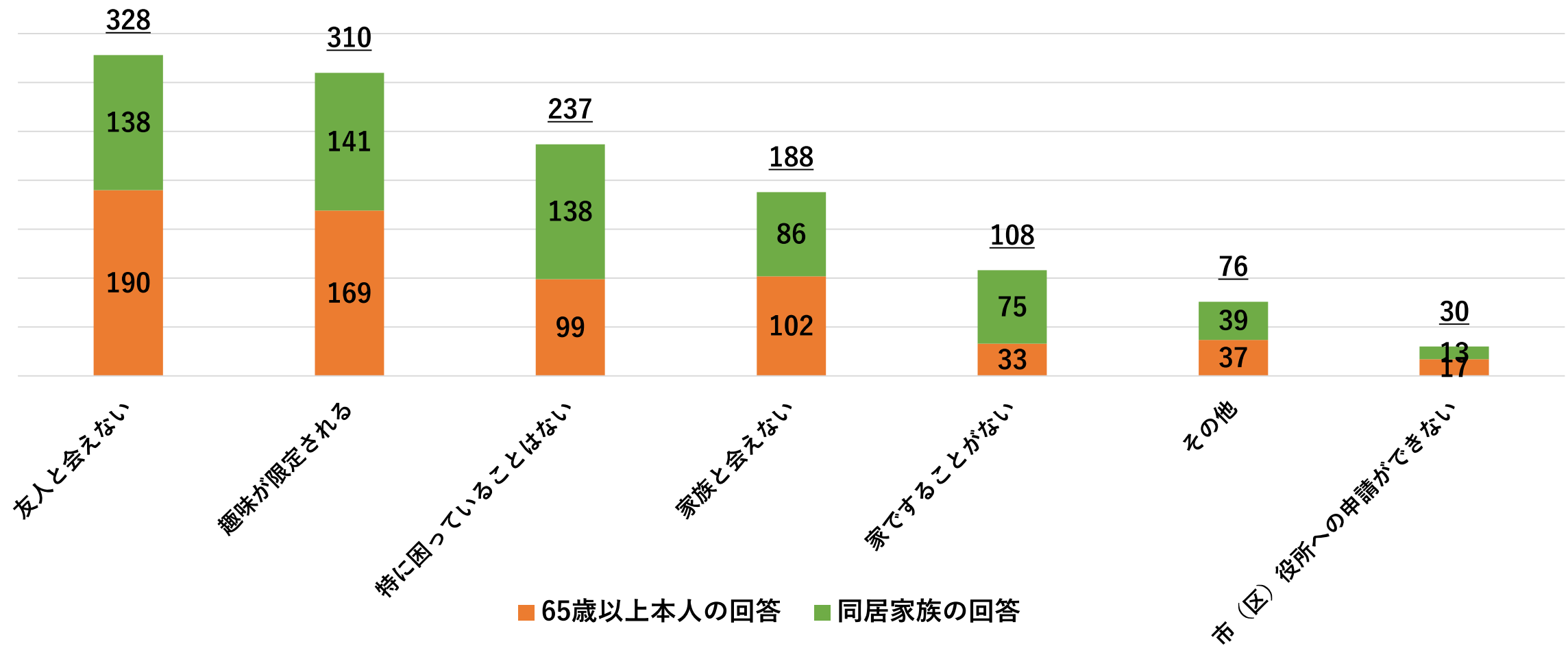


生活状況について④

※集計対象：回答者本人が65歳以上
及び同居者からみた65歳以上

- 自粛によって困っていることについては「友人と会えない」、「趣味が限定される」と回答した人で全体の半数を占めている。

外出自粛によって困っていること

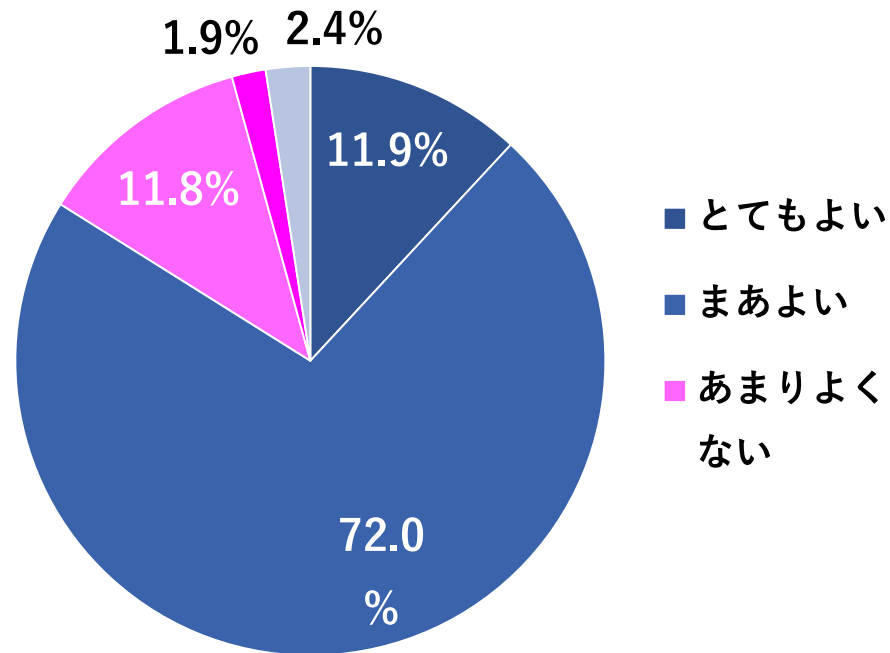


健康状態について①

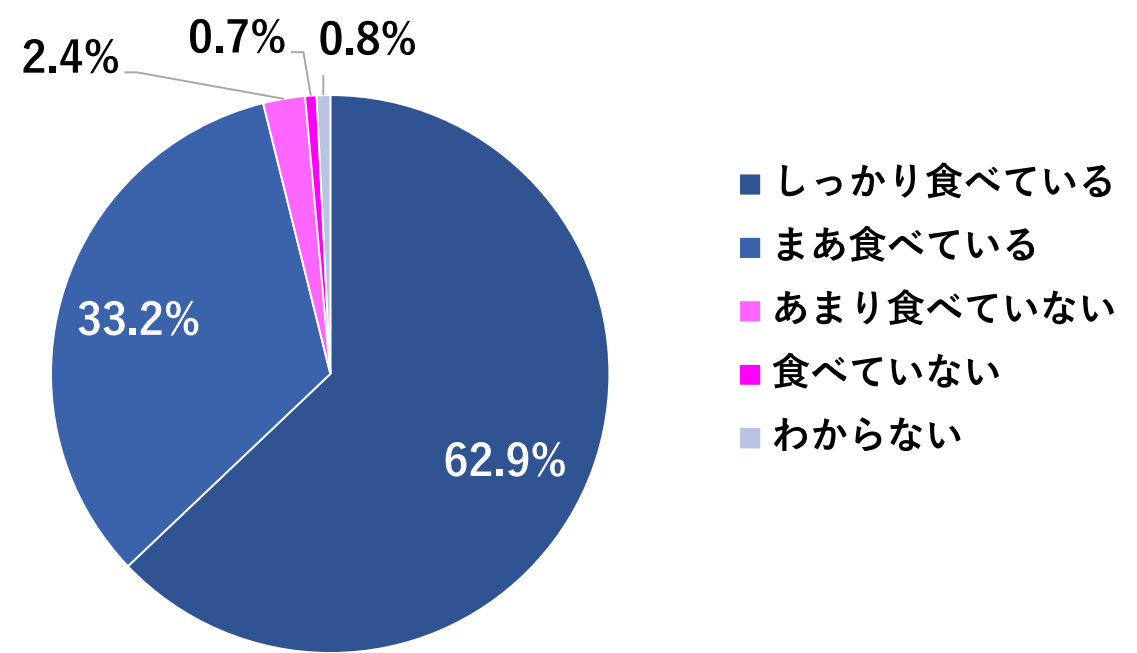
※集計対象：回答者本人が65歳以上
及び同居者からみた65歳以上

- 2月頃と比べ、健康状態が「よくない」又は「あまりよくない」と回答した方が13.7%いた。
- 1日3食の規則正しい食事に関しては、「食べていない」又は「あまり食べていない」と回答した方は、3.1%にとどまった。

2月頃と比べた健康状態



2月頃と比べて、1日3食、規則正しくしっかり食べているか

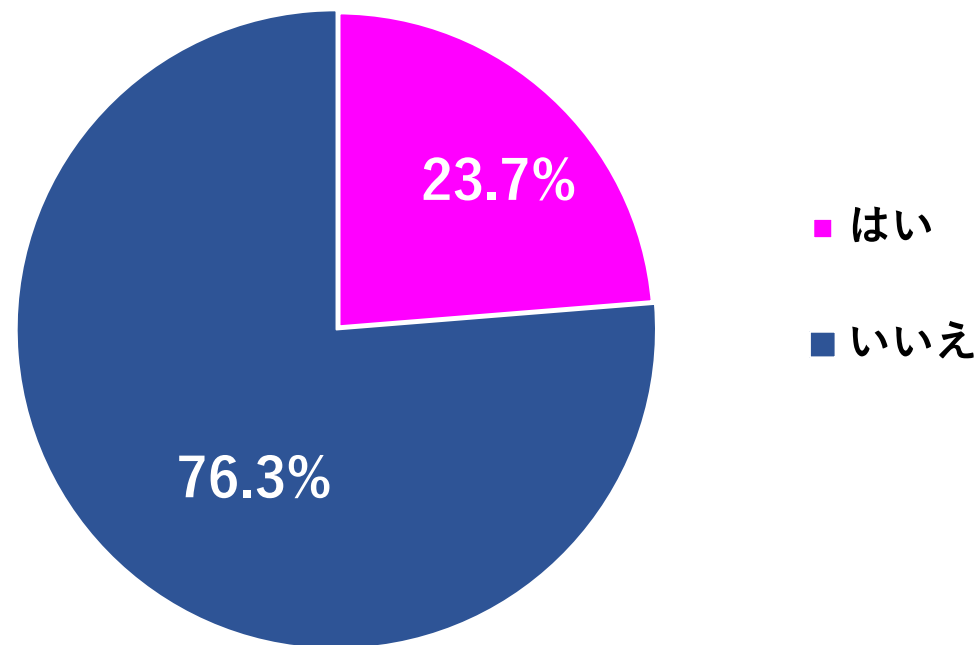


健康状態について②

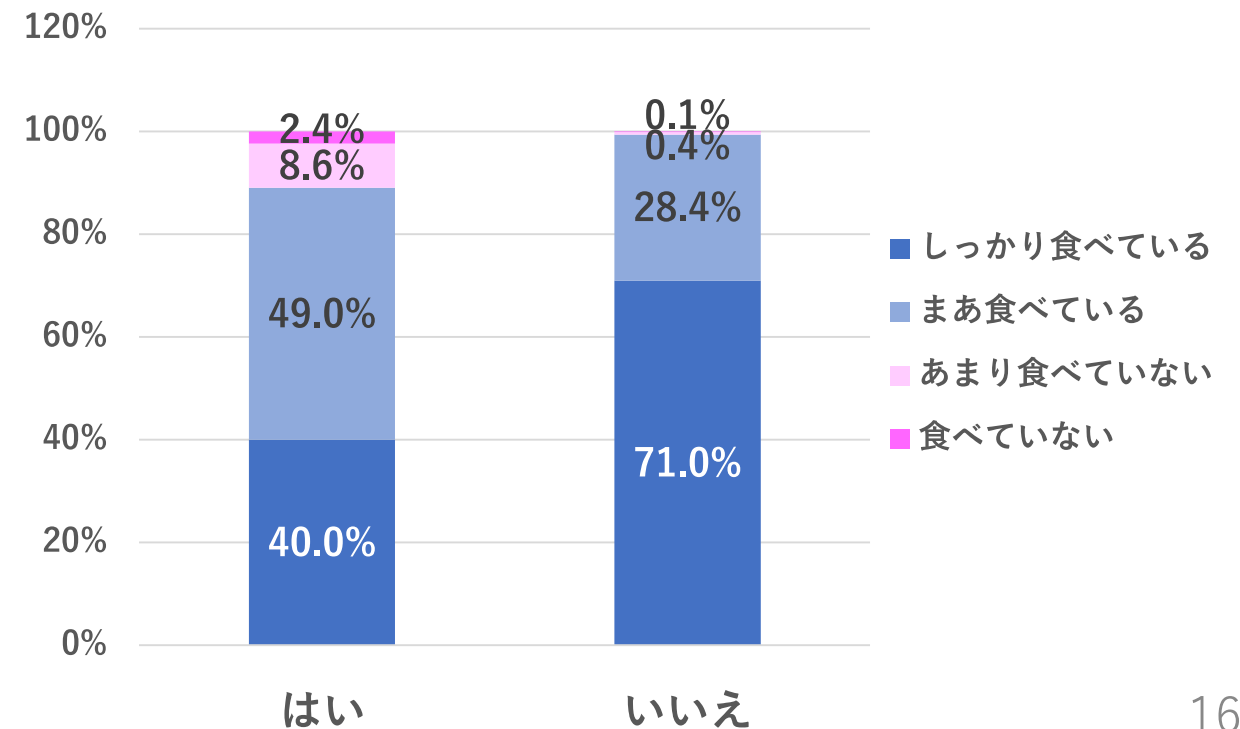
※集計対象：回答者本人が65歳以上
及び同居者からみた65歳以上

- 23.7%の高齢者が、「以前は楽にできていたことをおっくうに感じることがある」と回答している。
- 「おっくうに感じることがある」と回答した人の10%が、1日3食の規則正しい食事を「あまり食べていない」又は「食べていない」と回答している。

2月頃と比べ、以前は楽にできていたことを
今ではおっくうに感じることはありますか



おっくうに感じることの有無と食事

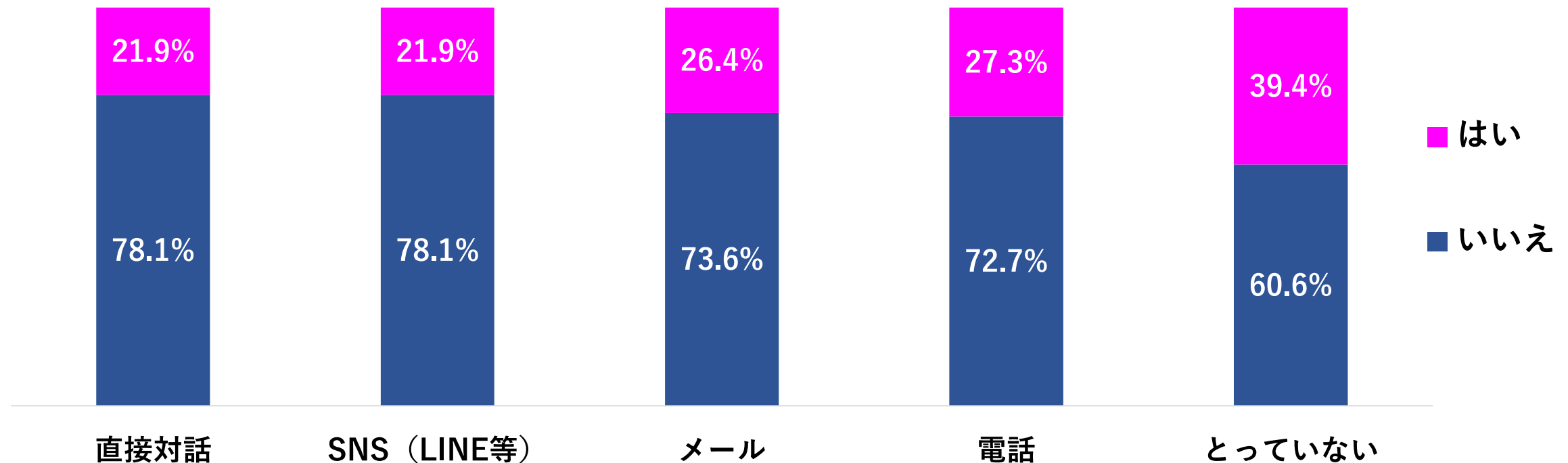


健康状態について③

※集計対象：回答者本人が65歳以上
及び同居者からみた65歳以上

- 最も頻度が高いコミュニケーションで「とっていない」と回答した方は、「おっくうに感じることもある」と回答した割合が他と比べて10ポイント以上高い。
- コミュニケーション頻度が高くなると考えられるSNS（LINE等）が、「おっくうに感じることもある」と回答した割合が、直接対話と同程度に低い。

最も頻度の高いコミュニケーション手段とおっくうに感じることの有無

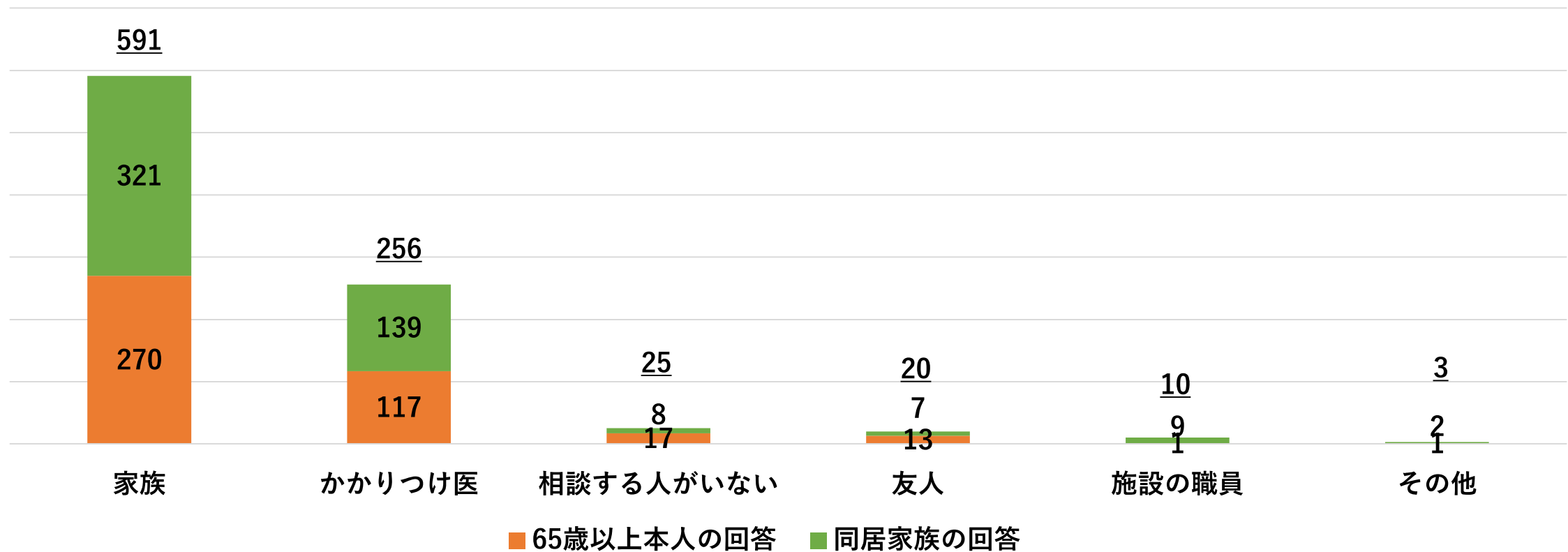


健康状態について④

※集計対象：回答者本人が65歳以上
及び 同居者からみた65歳以上

●体調不良時に相談する相手は「家族」が全体の約65%となっている。

体調不良時に相談する相手

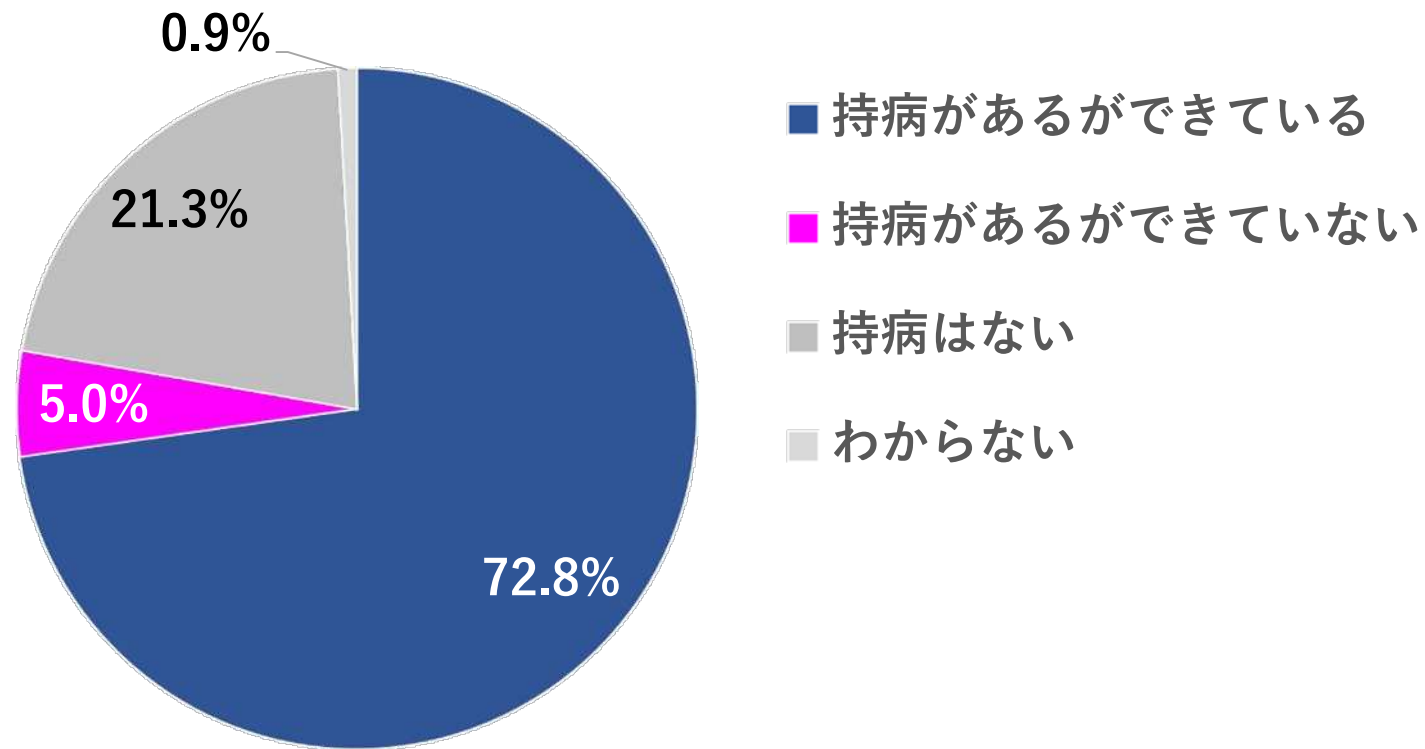


健康状態について⑤

※集計対象：回答者本人が65歳以上
及び同居者からみた65歳以上

- 持病がある方が全体の77.8%で、そのうち6.4%（全体の5.0%）は外出自粛要請の影響により、通院・投薬ができていない。

持病がある場合に通院・投薬ができていないか

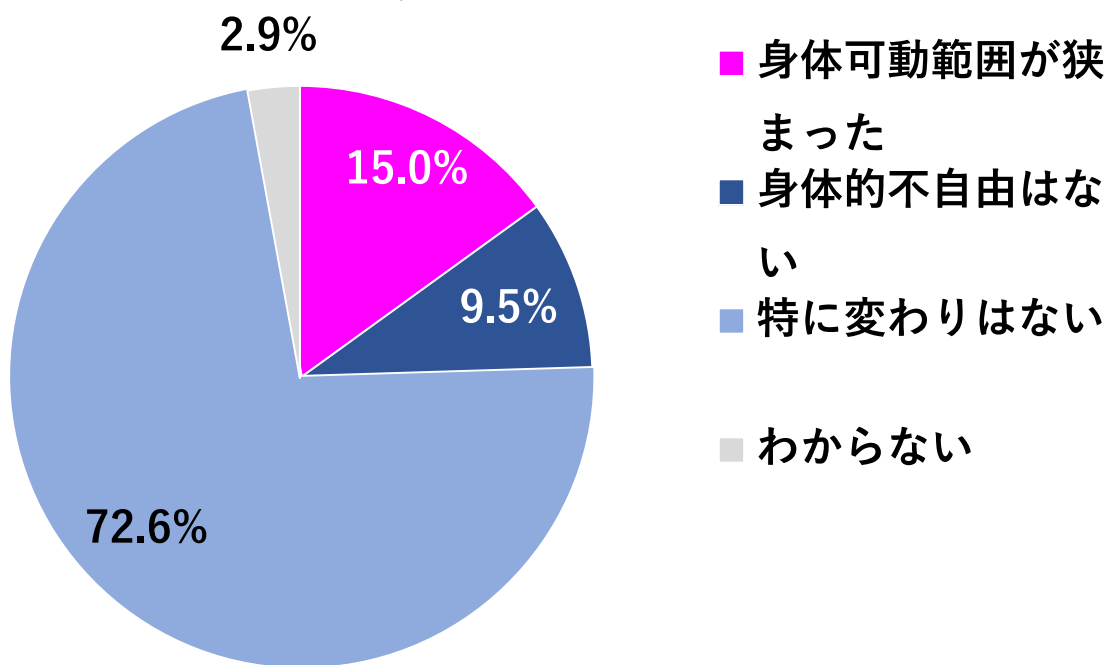


健康状態について⑥

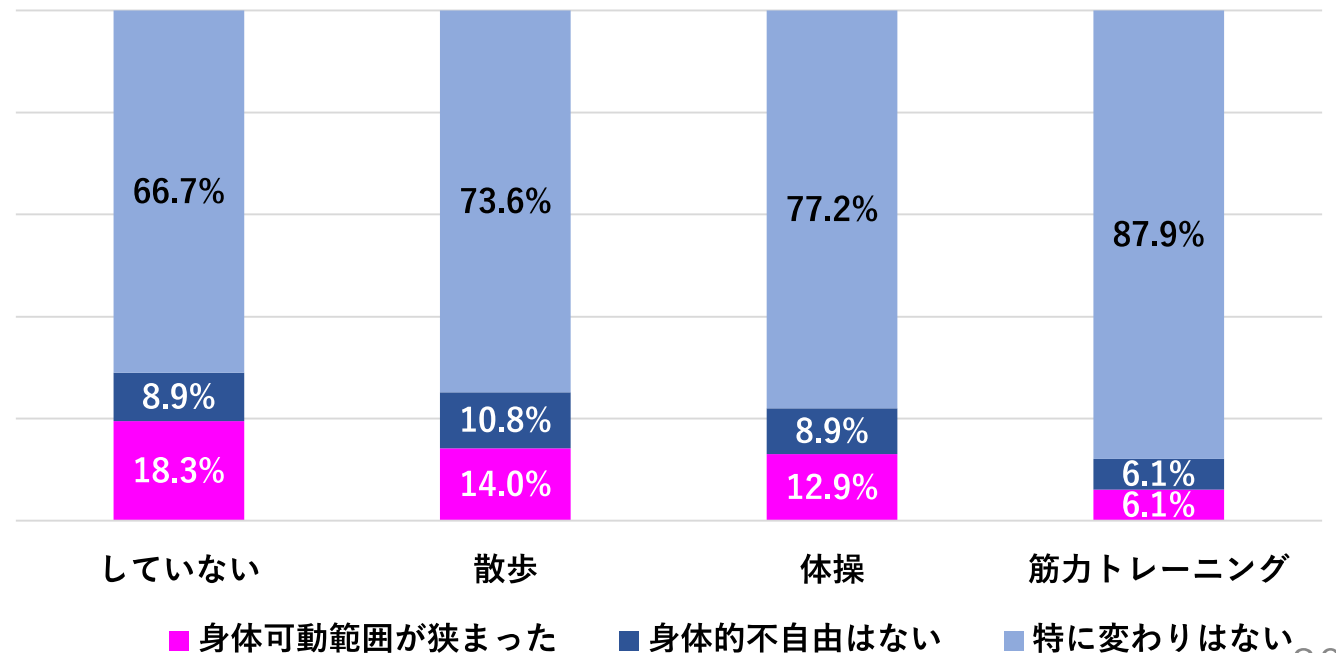
※集計対象：回答者本人が65歳以上
及び 同居者からみた65歳以上

- 外出自粛要請前と比べて「身体の可動範囲が狭まった」という回答は全体の15%あった。
- 「運動をしていない」場合に「身体可動範囲が狭まった」とする回答の割合が高く、「筋力トレーニング」を行っている場合に特に低くなっている。

身体の可動範囲が狭まるなどの影響は見られますか



運動実施有無・運動種別の身体可動範囲への影響

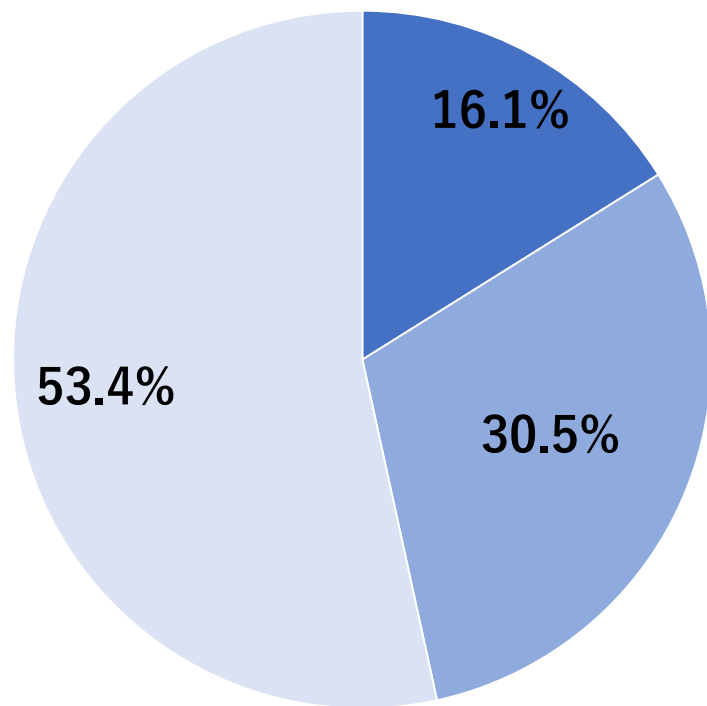


近隣の高齢者の様子について①

- 高齢者の姿を見かける頻度に関して、「減った」という回答が「増えた」という回答を上回った。

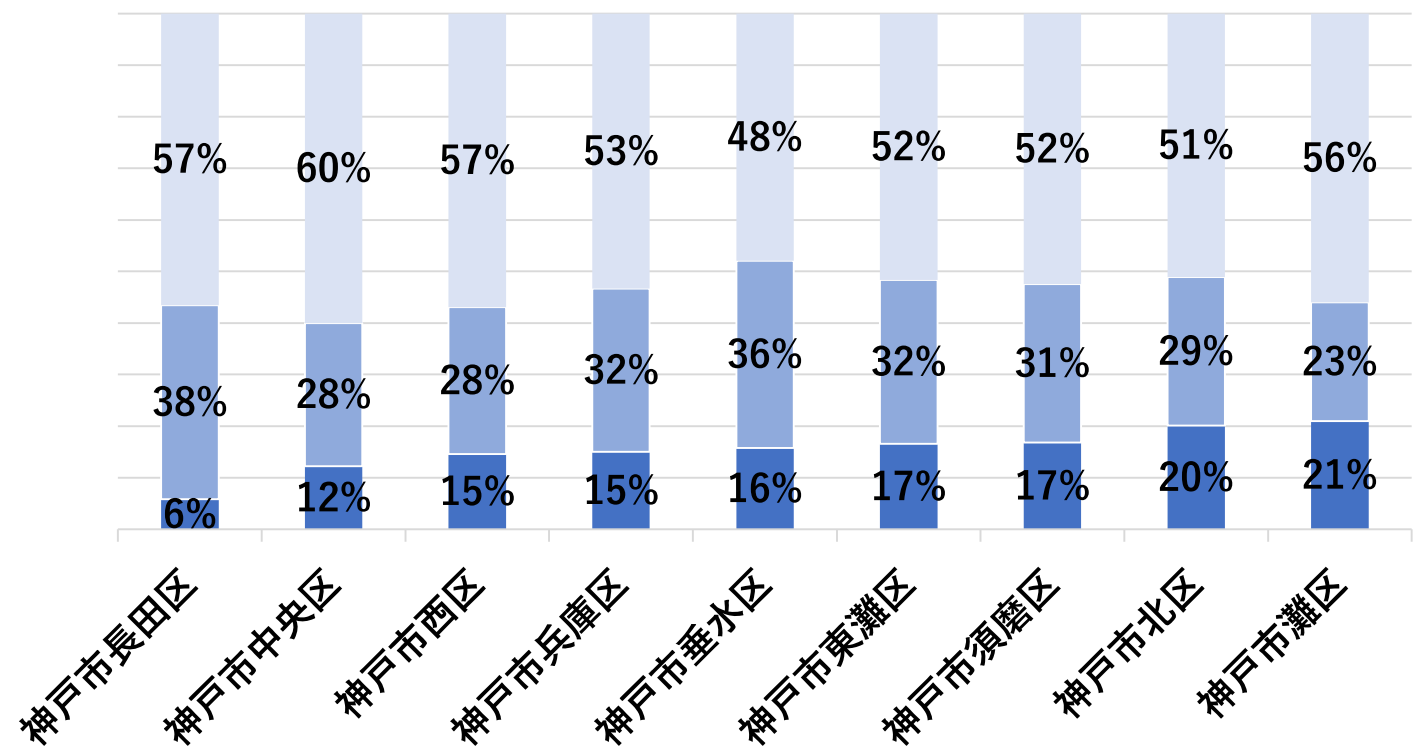
近隣で高齢者の姿を見かける頻度

■ 増えた ■ 減った ■ 変わらない



近隣で高齢者の姿を見かける頻度（区別）

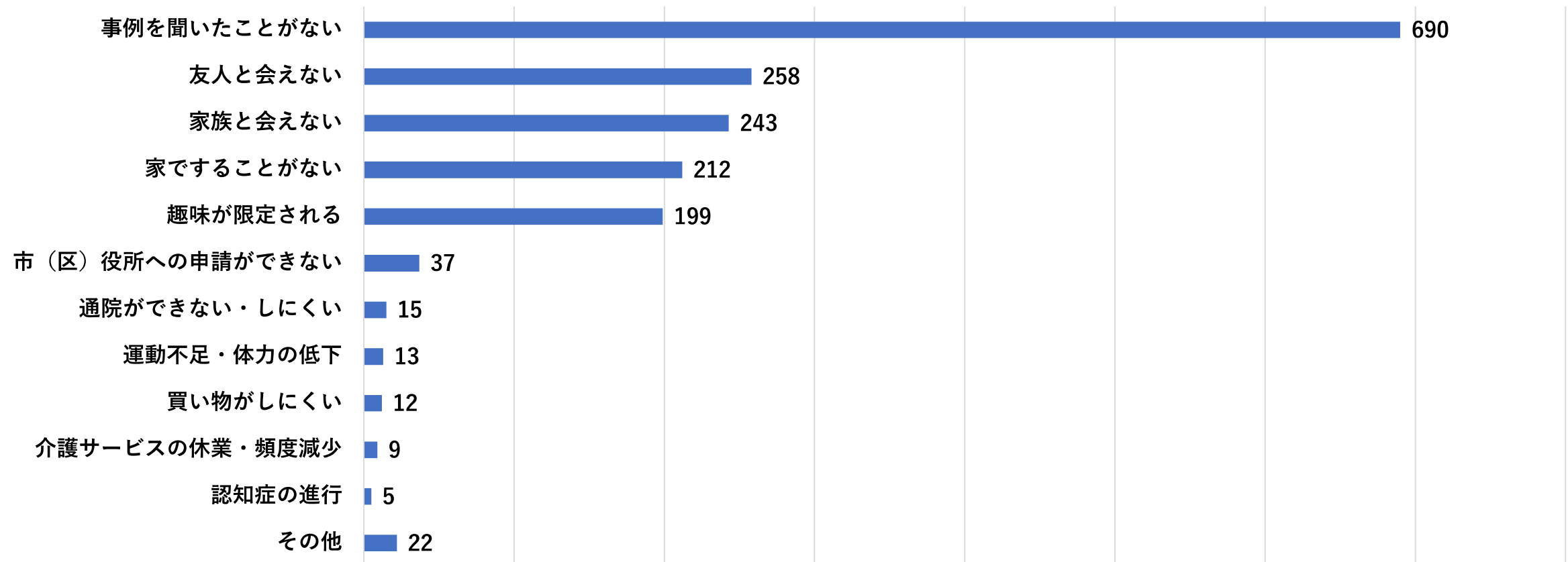
■ 増えた ■ 減った ■ 変わらない



近隣の高齢者の様子について②

- 「友人と会えない」、「家族と会えない」、「家ですることがない」、「趣味が限定される」という回答が大勢を占めている。
- 通院や買い物など実生活面への影響も一定見受けられる。

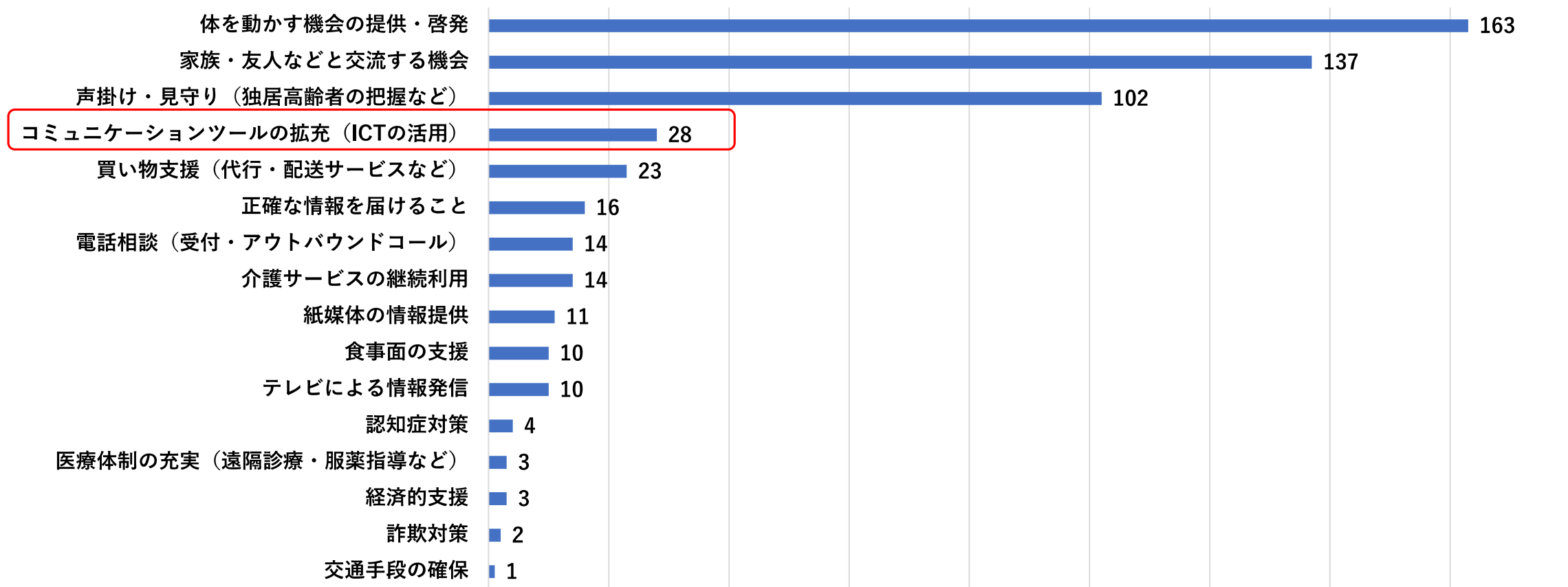
外出自粛によって高齢者が困ったという事例を聞いたことがありますか



近隣の高齢者の様子について③

- 運動やコミュニケーションの機会、声掛け・見守りの3項目に関することが大勢を占めている。
- 次いで意見が多かった「ICTを活用したコミュニケーションツールの拡充」に関しては、上位3項目における解決策となりうることが期待される。

外出の機会が減少した高齢者にはどのようなことが必要だと思うか



まとめ

ICT活用状況

- 回答者本人が65歳以上の場合、ほぼインターネットが使える、SNSが主要なコミュニケーション手段になっている。
- 同居者の回答では、インターネットを閲覧できない65歳以上の方は28.5%いる。

生活状況

- 全体の3割が自宅にいてもできることで社会に役立てたいことがあると回答。

健康状態

- 2月頃と比べ、健康状態が悪化した方が13.7%いる。
- 4人に1人の高齢者が「以前は楽にできていたことをおっくうに感じることもある」と回答しており、家族や友人とのコミュニケーションをとっていない場合に特に高い。一方で、最も頻度の高いコミュニケーション手段が「SNS」の場合、「直接対話」と同程度に低くなっている。

まとめ

健康状態（前ページのつづき）

- 持病がある方が全体の77.8%で、そのうち6.4%（全体の5.0%）は外出自粛要請の影響により、通院・投薬ができていない。
- 外出自粛要請前と比べて「身体の可動範囲が狭まった」という回答は全体の15%あり、運動をしていない人の割合が高かった。

近隣の高齢者の様子

- 近隣の高齢者が困った事例として、「友人と会えない」、「家族と会えない」、「家ですることがない」、「趣味が限定される」という回答が大勢を占めている。また、通院や買い物など実生活面への影響を懸念する意見も見受けられた。
- 外出の機会が減少した高齢者に必要なこととしては、運動やコミュニケーションの機会、声掛け・見守りに関する意見が多数寄せられた。また、ICTの活用に関する意見も多く、様々な課題への解決策となりうることが期待される。